

# 令和4年度事業計画書

コロナ禍がこれほどまでに長期化するとは、誰が予測できたであろうか。感染の影響は多方面に及び、当協会の事業運営にも大きな暗い影を落とし、社会全体が先行きの見えない不安の渦中にある。

今から10年ほど前になるが、道において策定された「関与団体見直し計画」の方針により、該当団体である当協会は、他団体との組織統合について協議を重ねる一方で、公益法人制度改革による新法人へ数年内に移行しなければならない状況にあった。

このような背景事情を踏まえ、当協会に出捐した6団体の代表者による懇談会が定期的に行われ、平成23年10月に、協会の今後の方向性と取り組むべき課題について提言がなされた。

その提言の最後には、「北海道における障がい者スポーツを振興するリーダーたる団体であることを常に自覚し、(中略)事業を的確に実行していくことこそが協会に課せられた使命であり、道民に対する協会の責務であると言えよう。」と記されている。

提言の趣旨を重く受け止め、未曾有の災禍の中、決意を新たに新年度の事業に取り組んで参りたい。

## I 大会開催等の事業（公益目的事業1）

～障がい者スポーツの競技力向上と振興を図るための大会開催等の事業～

### 1 大会開催事業

#### (1) 第60回北海道障がい者スポーツ大会の開催

身体障がい者及び知的障がい者が、スポーツを通じて体力の維持増進を図り、障がい者の自立と社会参加を促進させるとともに、障がいに対する道民の理解を深め、本道における障がい者のスポーツをより発展させることを目的として開催する。

本来の開催地ローテーションであれば、本年度は釧路管内の開催であったが、諸事情により、令和元年度に開催したオホーツク管内で実施する運びとなった。前回大会同様に、網走市が大会事務局を担い、4市町（網走市、北見市、斜里町、清里町）において6競技が行われる。

コロナ禍の影響により、令和2年度（石狩管内）、令和3年度（上川管内）と2年連続で大会の中止を余儀なくされたため、選手が参加するのは、令和元年度のオホーツク大会以来となり、まだ記憶に新しいオホーツクの地に再びアスリートたちが集い、各会場で競技に臨む。

清涼な気候に恵まれ、北のスポーツ基地と謳われている網走市では、メインとなる陸上競技のほか、団体競技のソフトボールとフットベースボールの3競技を実施する。

■開催年月日 令和4年6月19日、7月3日、7月10日、10月9日

■開催市町村 網走市・北見市・斜里町・清里町

■参加見込数 選手600人 役員等600人 合計1,200人

実施競技	開催地	競技会場	開催日
陸上競技	網走市	網走市営陸上競技場	6/19
車いすバスケットボール	北見市	北海道立北見体育センター	10/9

バスケットボール	清里町	清里町トレーニングセンター	7/10
サッカー	斜里町	斜里中学校グラウンド	6/19
ソフトボール	網走市	網走スポーツトレーニングフィールド	7/3
フットベースボール	網走市	網走スポーツトレーニングフィールド	7/3

## (2) 第 42 回北海道障がい者冬季スポーツ大会の開催

障がい者が冬季スポーツを通じて、健康な心身の維持増進を図り、希望と勇気を持って社会に参加するとともに、道民の共感を呼び起こさせ、ノーマライゼーションの理念の浸透を促進させることを目的として開催する。

本大会は、1981年の国際障害者年を記念して、昭和57年3月に小樽市の天狗山スキー場で第1回大会が開催され、以来、道内各地のスキー場で毎年開催しており、本道における障がい者スキーの普及発展に大きな役割を果たしてきた。

身体障がい者が参加するスキー大会としてスタートした本大会は、その後、平成12年の第19回大会から知的障がい者のクラスを設け、平成23年の第30回大会以降は、精神障がい者も参加する三障がい合同の大会として開催している。

コロナ禍の影響により、本大会は3年連続で中止となったが、道内でアルペンスキーとクロスカントリースキーの両競技を実施する障がい者スキー大会は唯一この大会だけであり、コースの難易度や距離に応じたランクを設定し、初心者から上級者まで気軽に参加できる競技運営に努めている。

■開催年月日 令和5年2月予定

■開催地 未定

■参加見込数 選手100人 役員等200人 合計300人

競技名	ランク・距離（予定）	競技会場
大回転競技	Aランク600m Bランク400m Cランク250m	未定
距離競技	Aランク3000m Bランク1000m Cランク500m Dランク150m	未定

## (3) はまなす車いすマラソン 2022 の開催

障がい者が車いすマラソンを通じて、お互いの理解と親睦を深めるとともに、希望と勇気を持って社会に参加する意欲を喚起させ、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者のスポーツの振興及びノーマライゼーションの理念の浸透を図ることを目的として開催する。

平成27年から北海道マラソンと合同開催している本大会は、東京五輪・パラリンピックが1年延期された影響などで、北海道マラソンが令和2年から2年連続で休止になったことから、真駒内公園を会場としたショートレースを計画するも、コロナ禍により開催を2大会連続で中止している。

3年振りの大会となる本年度は、従来どおり北海道マラソンとの合同開催となるが、北海道マラソンのコースが令和3年に札幌で行われた東京五輪マラソンのコースを活用したルートに変更となったため、車いすランナーも世界のトップアスリートが競ったコースを走行する計画である。

オープン競技のショートレースも札幌駅前通りを走路とするコースに変更となり、2kmコースに出場する車いすランナーは、1kmの周回コースを2周する設定となる。障がい者が重度のランナーには伴走者が並走し、札幌都心部のメインストリートを力走する姿を沿道の市民にアピールする。

■開催年月日 令和4年8月28日(日) ※前日の27日に受付、説明会等を実施

■開催地 札幌市

■参加見込数 選手200人 役員等800人 合計1,000人

実施競技	競技コース
ハーフマラソン(公認コース) 21.0975 km	大通西4丁目スタート→すすきの→幌平橋→南7条大橋→石狩街道→北24条通→新琴似2条通→新川通新川西1-1フィニッシュ
ショートレース(オープン競技) 2 kmコース/1 kmコース	大通西4丁目スタート→駅前通→北3条折返し→駅前通→南大通折返し→大通西4丁目フィニッシュ

#### (4) 競技別スポーツ大会の開催(主催・共催)

障がい者が競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、健康の維持増進、機能回復を図り、参加者との交流を深めることにより、障がいに対する道民の理解を深め、社会参加の意欲の向上を図ることを目的として開催する。

コロナ禍の影響により、全ての大会が2年連続で中止しており、3年振りの開催となる。アーチェリー大会を含め6大会は、全国障害者スポーツ大会に北海道選手団として派遣する選手の選考会を兼ねており、日々の練習を積み重ねてきた選手たちが、自己の可能性に挑戦する場でもある。

各会場では多くのボランティアが大会スタッフとして参加しており、競技に携わるボランティアのほかに、手話通訳、要約筆記、ガイドヘルパーなどのボランティアスタッフも大会運営には欠かせない存在であり、本事業は障がい者スポーツを支えるマンパワーの拡充に繋がっている。

大会名	開催日
	会場名
第37回北海道身体障がい者アーチェリー競技大会	令和4年7月31日(日)
	月寒アーチェリー場(札幌市)
第23回北海道ボッチャ選手権大会(共催)	令和4年8月28日(日)
	道立野幌総合運動公園(江別市)
タンデムサイクリング大会	令和4年8月28日(日)
	道立野幌総合運動公園(江別市)
第33回北海道障がい者水泳大会	令和4年9月11日(日)
	平岸プール(札幌市)
第34回北海道障がい者卓球競技大会	令和4年9月(予定)
	札幌市身体障害者福祉センター
第28回北海道障害者フライングディスク大会(共催)	令和4年9月25日(日)
	つどーむ(札幌市)
第36回北海道身体障がい者ゲートボール大会	令和4年10月8日(土)
	宮の沢屋内競技場(札幌市)
第34回北海道障がい者ボウリング大会	令和4年10月(予定)
	ディノスボウル札幌白石(札幌市)

## 2 大会派遣事業

### 第 22 回全国障害者スポーツ大会北海道選手団派遣

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的として派遣する。

本年度の大会は10月に栃木県で開催され、個人7競技に70名の選手を派遣する。団体競技は、6月頃に行われる北海道・東北ブロック予選会の優勝チームがブロックを代表して本大会に出場することになっており、バスケットボール競技は北海道で予選会を開催する。

令和元年の茨城大会は大型台風の接近を受け、大会直前に中止となり、令和2年の鹿児島大会、令和3年の三重大会はコロナ禍により中止という、3大会連続の悲運に見舞われており、4大会振りの全国大会出場に向け、5月に北海道選手団の強化合宿を実施し、本大会に臨む。

本大会は、平成12年まで別々に開催されていた「全国身体障害者スポーツ大会」と「全国的障害者スポーツ大会」を統合し、平成13年に第1回大会が宮城県で開催され、以降、オリンピック終了後に開催されるパラリンピックと同じように、毎年、国民体育大会終了後に開催されている。

#### ■強化合宿

第1班 令和4年5月10日(火)～12日(木) 道立野幌総合運動公園 (江別市)

第2班 令和4年5月17日(火)～19日(木) 道立野幌総合運動公園 (江別市)

第3班 令和4年5月24日(火)～26日(木) 道立野幌総合運動公園 (江別市)

#### ■バスケットボール競技 北海道・東北ブロック予選会

令和4年6月4日(土)～5日(日) 北広島市総合体育館

#### ■選手団派遣

令和4年10月27日(木)～11月1日(火) 栃木県 選手70人・スタッフ42人(団体競技未定)

#### ■大会開催

令和4年10月29日(土)～31日(月)

#### ■競技会場 (個人競技)

式典/競技名	式典/競技会場	派遣選手数
開・閉会式	カンセキスタジアムとちぎ (宇都宮市)	—
陸上競技	カンセキスタジアムとちぎ (宇都宮市)	29人
水泳	日環アリーナ栃木屋内水泳場 (宇都宮市)	10人
アーチェリー	那須烏山市緑地運動公園多目的競技場 (那須烏山市)	1人
卓球	TKCいちごアリーナ (鹿沼市)	12人
フライングディスク	栃木市総合運動公園陸上競技場 (栃木市)	10人
ボウリング	足利スターレーン (足利市)	6人
ボッチャ	三和住宅にしなすのスポーツプラザ体育館 (那須塩原市)	2人
	計	70人

#### ■派遣選手選考委員会 (特別全国障害者スポーツ大会「鹿児島県：R5.10.28～30」)

令和5年2月予定 かでの2・7会議室 選考委員12名

## II 指導者育成等の事業（公益目的事業2）

～障がい者スポーツを普及啓発するための指導者育成等の事業～

### 1 指導者育成事業

#### (1) 障がい者スポーツ競技指導者研修会

障がい者スポーツの振興と競技力向上にあたる指導者の資質と指導力の向上を目指し、障がい者スポーツ指導者を養成することにより、障がい者の自立と社会参加を促進するとともに、障がい者スポーツ環境の一層の充実を図ることを目的として実施する。

北海道障がい者スポーツ大会の実施競技は、個人・団体あわせて6競技あるが、一般には普及が遅れている競技やジャッジが複雑な競技をあらかじめ特定し、審判員や競技運営に携わる方々を対象に、事前の研修会を原則2回実施している。実施対象となる競技は、下表の3競技となる。

本研修会に参加する受講者は、一般の競技団体に所属し、審判資格を有する指導者であるが、障がい者スポーツに関わる機会は極めて少ないことから、本研修会を通じて、障がい者スポーツ特有のルールを習得し、審判経験を積むことにより、地域のキーパーソンとしての役割が期待できる。

#### ■競技指導者研修会実施計画

研修会名	実施予定	研修対象団体
陸上競技審判研修会	令和4年(未定)	オホーツク陸上競技協会
車いすバスケットボール競技審判研修会	令和4年(未定)	北見地区バスケットボール協会
フットベースボール競技審判研修会	令和4年(未定)	網走野球連盟

#### (2) 初級障がい者スポーツ指導員養成講習会

障がい者の適性に応じたスポーツやレクリエーションの実施方法及びリハビリテーションとの関連性等について講習を行い、主として身近な障がい者に対してスポーツの喜びや楽しさを理解させるための指導者を育成することを目的として実施する。

コロナ禍の影響により、本講習会を2年連続で中止しており、3年振りの開催となる。コロナ感染対策として受講定員を30名から20名に減員し実施する。現在、道内には千名を超える有資格の指導者が各地域で活動しているが、今後も継続して指導員の数を増やしていく必要がある。

障がい者のスポーツ参加を支援する中で、障がい者スポーツ指導者に求められる役割は年々大きくなっており、資格取得者がスポーツ指導や大会、教室、イベントのサポートなど、それぞれのフィールドで活躍しており、障がい者スポーツの環境を整備する上で不可欠な存在になっている。

■開催年月日 令和4年11月11日（金）～13日（日）

■開催地 札幌市（北海道青少年会館コンパス）

■受講定員 20名

■講習内容 全21時間（講義・実技）

### 2 普及啓発事業

#### (1) 障がい者スポーツ教室

スポーツに親しむ機会の少ない障がい者が、障がいの特性に応じたスポーツを生活の中に取り入

れるための契機となるよう、各種スポーツのルールや基本的な技術を修得するとともに、スポーツに親しみ、多くの仲間と交流しながら、社会参加意欲の向上を図ることを目的として実施する。

教室事業は、地域が限定されることと、少人数でも開催できることから、コロナ禍においても感染対策を講じながら実施してきたところであり、本年度も、身近な地域で安心してスポーツに親しむ機会が得られるよう、地域のニーズに応じたスポーツ教室を開催する。

年度初めにスポーツ教室の実施団体を募集し、年間の教室日程を決定した上で、当協会が教室開催に係る経費を負担し実施する。実施団体となる地域の障がい者団体や支援学校が教室事業の企画から運営まで携わり、主体的に取り組むことにより、継続的なスポーツ活動の維持に繋げている。

#### ■障がい者スポーツ教室開催計画

項目	実施内容
教室回数	20教室
参加対象	満年齢13歳以上の障がい者（身体障がい・知的障がい・精神障がい）
競技種目	水泳、ボウリング、ゲートボール、ティーボール、パークゴルフなど

### (2) 全道巡回障がい児者スポーツ教室

本道の障がい児者が、身近な地域において自主的、積極的、継続的にスポーツに参加できる環境づくりを目指し、道内の総合型地域スポーツクラブと連携・協働し、地域の障がい者スポーツの振興体制を整備することを目的として実施する。

他県に類を見ない広域な本道においては、障がい者スポーツを推進するための拠点を全道の各地域に整備する必要があるとあり、地域スポーツの担い手としての役割や地域コミュニティの核としての役割を果たしている総合型地域スポーツクラブと協働し、令和元年度から全道展開している。

本年度も5つのクラブを選定し、日本パラスポーツ協会公認の上級障がい者スポーツ指導員をコーディネーターとして定期的に各クラブに派遣し、スポーツ教室を実施するとともに、地域の実情や課題に応じた助言を行い、障がい者スポーツの拠点づくりを推し進める。

#### ■全道巡回障がい児者スポーツ教室開催計画

項目	実施内容
対象団体	総合型地域スポーツクラブ
参加対象	クラブのメンバー、地域の障がい児者関係団体、施設職員など
競技種目	フライングディスク、ボッチャ、ゴールボール、ドッチビーなど

### (3) 会報紙の発行

当協会の事業内容や活動状況などの情報発信を行うことを目的として、会報紙「飛躍」を隔月で年6回発行する。会報紙「飛躍」は、当協会が任意団体として設立した年の翌年となる昭和61年1月に第1号を発刊し、令和3年4月号が記念すべき通巻300号となった。

毎号500部を発行し、当協会の賛助会員をはじめ関係団体へ定期的に送付しており、当協会の事業に関する情報を中心に、道や関係団体が実施している障がい者スポーツ関連のニュースも掲載するなど、本年度も購読者にタイムリーで有益な情報を提供する。

#### (4) ホームページの運用

当協会の活動内容や最新の障がい者スポーツ情報をリアルタイムで発信することを目的として、ホームページを運用する。スポーツ大会やスポーツ教室の参加申込書類がダウンロードできる機能をはじめ、閲覧ユーザーにとって利用価値の高いホームページ運用に努める。

スマートフォンからも、サイトの検索や閲覧をストレスフリーで利用できるよう、ホームページのレイアウトを端末の画面サイズによって自動変換する機能を備えており、いつでもどこでも必要なデータが得られる情報媒体として、ユーザーの利便性の一層の向上を図る。

### 3 団体助成事業

#### 障がい児者スポーツ団体助成

道内を活動拠点とする「障がい児者スポーツの振興事業を行う団体・グループ」への支援を通して、本道における障がい児者のスポーツの裾野の拡大を図るとともに、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者の社会参加の促進に寄与することを目的として助成する。

北洋銀行の支援を受け、当協会が実施主体となり、年度初めの4月に助成希望団体を募集し、5月の審査会において選考の上、同月開催の理事会に答申し、助成先団体を決定する。助成額の総額は90万円で一団体の助成額の上限は10万円となる。6月に助成決定通知書授与式を行う。

なお、本年度は、新たに制定された北海道スポーツ推進条例の第10条「障がい者スポーツの推進」に基づく施策として、道の補助による障がい児者スポーツ団体に対する助成金100万円が予算化されたことにより、これまで以上の重層的な支援を行うものとする。

## Ⅲ 管理部門

### 1 会務

#### (1) 監事監査

実施日	実施場所	監査内容
令和4年4月下旬	かでの2・7事務所	令和3年度事業報告・決算・理事の執行状況

#### (2) 理事会

開催日	開催場所	主な議案
令和4年5月中旬	かでの2・7会議室	第1回理事会（令和3年度事業報告・決算）
令和5年3月中旬	かでの2・7会議室	第2回理事会（令和5年度事業計画・予算）

#### (3) 評議員会

開催日	開催場所	主な議案
令和4年6月上旬	かでの2・7会議室	定時評議員会（令和3年度決算）